

【目指す学校像】みんなで どんなときも りかいしあえる学校

【目指す児童像】かしこい子 やさしい子 たくましい子

みどりが丘小だよ

令和4年9月15日発行
鹿沼市立みどりが丘小学校



学校
ホームページ



困難を乗り越える力を養う

新型コロナウイルス感染拡大の高止まりが続く中、夏休みに予定されていた PTA 奉仕作業が中止となり、運動会も11月へ延期となってしまいました。二学期も様々な行事が変更を余儀なくされる状況となっておりますが、そんな中でも子供たちは比較的落ち着いて生活できており、保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、今年の夏は連日の猛暑日や各地の記録的大雨被害など、異常気象が目立っております。今後は下校時における雷雨対応や台風への対応、さらには熱中症対策と、新型コロナウイルス以外の対策も講じる必要があります。

この3年間の間、常にイレギュラー対応に追われてきたこともあり、学校は様々な困難にも動揺することなく対処する力を身につけることができました。

さらに、困難を乗り越えていけるよう努力してまいります。

引き続きご理解・ご協力のほどをよろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス対策
推進中 COVID-19

学校評価結果から（前期）

1学期の教育活動について、児童・保護者アンケートや教職員自己評価をもとに振り返りを行い、改善策について検討しました。

【共通して高評価の項目】

- 学校は楽しい
- 授業はわかりやすい
- 友達と仲良くしている
- 先生は子供を大事にしている
- 衛生習慣が身についている

みどりっ子 アクションプログラム

考えよう 伝え合おう
笑顔であいさつ 自分から
元気に動いて、おいしく食べよう

【課題と思われる項目】

- 進んで家庭学習に取り組んでいる
- たくさん本を読んでいる
- 話を最後まで聞くことができる
- 嫌いな食べ物を減らす努力をする
- あいさつができる

*一番の重点項目である「学校が楽しい」に関しては、90%以上の好意的な回答を得られており、ありがたく思います。課題としては、昨年同様、家庭学習や読書などがあげられ、特にあいさつは児童と保護者・教職員とで評価に差が見られ、意識の違いがうかがえました。また、地域との連携に関する項目に関し、すべての項目で90%以上の好意的な回答をいただき、理解が得られていることに感謝申し上げます。これらの結果を受けて、知・徳・体の3つの部会に分かれ改善策を検討しました。自由記述の中の課題と思われる記述内容に関しましては、可能な範囲で改善を図りたいと思います。コロナ禍で様々な制約もある中での実施となりますが、ご理解ください。

【かしこい子部会】

- 自主学習の例を紹介するなど個人差の解消に努める。
- 多読賞表彰の工夫等の読書における意欲づけを図る。

【やさしい子部会】

- 学校運営協議会を通じて地域や保護者と連携し、気持ちのよいあいさつができるよう指導する。

【たくましい子部会】

- 生活リズムに関する動画の紹介やチェック表の活用など、食育への取組を工夫する。
- 様々な遊びの紹介を行う。

*今後の実践を通して「みどりっ子アクションプログラム」として、全校体制で取り組んでいきます。

生き生き教育活動

<2学期始業式> 8/29 (月)



始業式リモートが3年以上続いています。一日も早い新型コロナ感染拡大の終息を願うばかりです。

【お知らせ】

※熱中症予防対策の期間について

7月より実施している熱中症対策ですが、6/20の通知では「9月の運動会頃まで」とお伝えしました。このたびの運動会延期を踏まえ、一応9月末日までといたします。天候状況により、変更する場合には、その都度お知らせいたします。



<校長のつぶやき> ~高校野球に自分を重ねて~

今年の全国高校野球甲子園大会では仙台育英高校が優勝し、優勝旗が初めて白河の関を越え、東北に渡ったと話題になりました。と同時に、優勝監督のインタビューが注目を集めました。

「入学どころか、おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて。高校生活ってというのは、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんです。

青春って、すごく密なので。でも、そういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動していても、どこかでストップがかかって、いつも止まってしまうような苦しい中で。でも本当に諦めないでやってくれたこと、それをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、全国の高校生みんなが本当にやってくれて・・・すべての高校生の努力の賜物が、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらと思います。」

私も高校球児でした。残念ながら、私にとっての甲子園は県総合運動公園となってしまいましたが・・・。当時は水分を補給することも制限され、どこの学校も「気合い」と「根性」がメインの激しい練習。午後になると、古賀志山が雲で見えなくなることをひたすら願う毎日でした。(古賀志山が曇ると雨になることが多く、練習も室内練習で比較的軽くて済むからです)

そんな厳しい練習を経験してきた同学年の仲間は、今でもかけがえのない存在です。これまでの人生を振り返ると、確かに密な3年間でした。卒業して何十年も経ちますが、再会すると必ず当時のサヨナラ負けをした試合が鮮やかによみがえり、ひたすら同じ話を繰り返すのでした。

仙台育英高校の監督は、甲子園大会に出場することではなく、甲子園で優勝するためのチームづくりを心がけていたそうです。「甲子園の優勝は選ばれた学校にしかできない。甲子園に選んでもらえるためには、野球だけでなく、生活も、勉強も優勝校としてふさわしくなければならぬ。」と指導してきたそうです。

監督の優勝インタビューは、多くの人々の心に刺さりました。私もその一人で、見栄っ張りな私は普段家族に涙など見せないのですが、その場に誰もいなかったため、安心して顔をクシャクシャにすることができました。

同時に、高校時代に雨が降ることを期待していた40年前の自分。志の低さを反省するのでした。

